

第二回国際シンポジウム「コメと疾病予防」開催記念

# 市民公開講座

ご案内

平成20年

10月25<sup>土</sup>・26<sup>日</sup>

和歌山県民文化会館

26<sup>日</sup>・27<sup>日</sup>

展示物学習ツアー  
も実施致します。

25日土

和歌山県民文化会館  
(小ホール他)  
参加費無料

## プログラム

### ★利きコメ大会 (11:30~13:30 於:6階フロラリア)

世界の代表的なコメを数種類用意いたします。  
そして、今年も、新米の季節を迎えました。日本のおいしいお米も併せて是非ご試食ください。

### ★S.G.R.設立ごあいさつ・お祝いメッセージ (14:00~14:15)

「第二回国際シンポジウム」を開催するにあたり、コメに関わるさまざまな課題についての研究を積極的に進め、情報の共有化を図り、米生産国との交流・技術支援に努力することが求められているため、それらを目的とした研究グループを組織委員会の委員長、委員が中心となり設立するに至りました。 南條輝志男委員長（和歌山県立医科大学学長兼理事長）よりその報告、今後の抱負等を皆様にお伝えいたします。

### ★講演会 (14:15~15:00)

#### 高野山お大師様への民俗信仰と 食に対する感謝の心の大切さ

日野西眞定 高野山真言宗総本山金剛峯寺奥の院前維那・元高野山大学教授  
併設展示（県民ロビー・4階402会議室）

江戸時代の民俗信仰の一つである「雑事登り」に関する貴重な資料を紹介いたします。  
また、県民ロビーには高野山を撮り続けておられる永坂嘉光先生の写真を中心に、  
高野流五段華など金剛峯寺からご提供いただき、高野山を味わっていただきます。

### ★パネルディスカッション (15:10~16:25)

#### コメと健康：その秘密を探る



司 会：菅野道廣 九州大学・熊本県立大学名誉教授  
井上正子 日本医療栄養センター所長  
  
パネラー：  
五十嵐脩 栄養改善普及会会長・お茶の水女子大学名誉教授  
伊東正一 九州大学大学院農学研究院農業資源経済学部門教授  
大坪研一 新潟大学農学部応用生物化学科教授  
神村義則 日本植物油協会 専務理事  
辻 悅子 兵庫大学教授  
高野克己 東京農業大学応用生物科学部教授

### ★演奏会 川瀬麻日香さんによるバイオリン演奏 (13:45~14:00)

山城裕子さんによるピアノ演奏 (16:35~17:10)

#### 講演者のご紹介

##### 日野西眞定

奥の院では、お大師さまは生きて人々を救ってくださっているという立場でお祀りされておられます。835年に御廟が建立されて以来、弟子達によって始められた「昼の膳」、1023年藤原道真卿が参詣した時、奉納されて始まった「朝の膳」の二つは、欠かすことなく維那によって供えられています。

灯籠堂正面の二つの消えずの火と囲炉裏の間の種火は、1117年以来、永遠に燈え続けています。

一方、中世莊園制度時代に始まった雑事という年貢以外の野菜などを納める税制は、江戸時代になると民族信仰の一つとなつて残りました。人々は初物をお大師さまに供えるようになっていましたが、高野山麓の地区民と参詣する人々の間では、相互信頼と了解の基に、家の前に薬などに包んで置いておくと、参詣人はこれを山上寺院に運ぶと功德になると信じて納めています。今でも毎月納める風習が残っている地区があります。

これらの二つを長年にわたり維那として実践し、また研究・調査してこられた日野西先生によりお大師さまへの生きた信仰の姿として皆様に紹介いただき、「食」へのありがたさを説くご講演をいただきます。

また、これらの行事に関する展示も併設致します。



#### パネルディスカッション のご紹介

##### 司会：菅野道廣 井上正子より



栄養・生理学、特にコメに関する研究に長年携わってこられた著名な先生方が一同に会されます。S.G.R.「コメに関する研究グループ」が設立されました。この大変意義深い第二回国際シンポジウム「コメと疾病予防」が和歌山県で開催されるにあたり、パネラーの先生方に、心ゆくまでお話をいただき、皆様と共に、「コメと健康」について考えるひとときを過ごしたいと思い、下記のような内容でパネルディスカッションを企画いたしました。

テーマ1：「コメ油に秘められた健康作用」  
日本におけるコメ油の位置付け、そして、そのコメ油の栄養的特徴と健康効果について紹介いたします。

テーマ2：「コメのおいしさの謎を解く」では、  
食生活におけるコメの役割や炊飯の技術、コメのおいしさに焦点を当て、その秘密を紹介いたします。

テーマ3：「コメ作りの奥義」  
世界のコメ事情、そして、世界に冠たるわが国のコメ生産技術、コメ作りの歴史的背景などにもテーマを広げ、日本の役割について考えます。

当日、会場の皆様からのご質問も大歓迎。  
大切な日本の宝：コメの夢と一緒に語り合いましょう。  
皆様にお目にかかるのを楽しみにしています。

# 26日

和歌山県民文化会館  
(5階大会議室)  
参加費無料

第二回国際シンポジウム「コメと疾病予防」の組織委員として和歌山県と関わりの深い先生にご講演いただきます。

## プログラム

### ★ 食は生命なり (12:45~13:45)

女子栄養大学学長 香川芳子

併設展示 (4階406会議室)

「栄養学と香川綾の生涯」と題して、歴史と教育の実績をパネルや映像で紹介するとともに、月刊誌「栄養と料理」等女子栄養大学よりお借りして展示いたします。

### ★ 発癌機構に基づく新規癌予防法・治療法の創案と、その開発研究の実際 (14:00~15:00)

京都府立医科大学大学院医学研究科教授 酒井敏行

併設展示 (4階406会議室)

大学で教鞭をとられる傍ら、熊楠の里音楽コンクール大会委員長を務められた先生の横顔を紹介いたします。

## 併設展示

- 世界遺産高野山に見る「信仰の世界と食」
- 国際稲研究所 (IRRI) と国際農林水産業研究センター (JIRCAS) の活動を通した国際的な食糧危機からの救済への取り組み
- 私たちの最も身近な油脂資源「コメ油」を見直そう
- 稻作に係る農機具の変遷
- つくばリサーチギャラリー提供のコメと環境、バイオ技術、コメの新品種、美しい国土、コメクイズパネル、緑のダム等のパネルや各種展示物

～これらの展示を通して、もっとお米について知りたいだけるようになれば幸いです。～

## 26日・27日 展示学習ツアー

上記展示物を皆様のご要望に合わせて見ていただくツアーと各種教育を受けていただけるプログラムをご用意できます。ご希望の方は下記問合せ先までご連絡ください。

## 講演者のご紹介



香川芳子

香川芳子先生は女子栄養大学の学長です。お母様（故香川綾様）は、和歌山県のご出身の名医で、大学の創立者です。お母様はご主人と共にかつて日本の亡國病と言われるほどであった脚気の研究に取り組むことにより、家庭食養研究会（現大学の前身）を発足させました。

お母様が考案された「四群点数法」こそ日本の栄養学の基本となるのですが、その教鞭をとられる傍ら、クリニックを開設され、家庭での食養の普及にも努められました。

又、精白米のビタミンB1欠乏を見出したことにより開発され、当時の脚気予防になるとして全国に広まった胚芽米の存在そのものが、現ビタミン学の発展や微量成分の栄養学の研究に拍車をかけることとなり、そのご功績には多大なものがありました。この栄養学を継承された現学長が、第二回国際シンポジウム「コメと疾病予防」の組織委員、基調講演者として和歌山入りされるにあたり、お母様が和歌山に来られかつての学舎で子供達に教育された時と同じように、今の時代の「食」に関する大切な事柄を平易に解説いただくと共に、一般的の皆様にもわかりやすく「食は生命なり」の持つ深くありがたい意味についてご講演いただきます。

1931年 東京都生まれ  
東京女子医科大学卒業  
東京大学大学院修了（医学博士）  
カリフォルニア大学大学院（米政学）修了  
女子栄養大学 栄養クリニック開設  
女子栄養大学教授  
現在 女子栄養大学学長



酒井敏行

1953年 和歌山県有田郡湯浅町生まれ  
京都府立医科大学 卒業 医学博士  
京都府立衛生部研究課 予防課技師  
ハーバード大学に留学（眼科学教室研究員）  
京都府立医科大学 公衆衛生学教室教授  
などを歴任  
現在  
京都府立医科大学医学研究科長 分子標的癌予防医学教授  
日本衛生学会副理事長  
日本癌学会評議員

酒井敏行先生は、和歌山県有田郡湯浅町のご出身です。嘉永5年(1852年)に創設された、全国でも有数の歴史ある高校のひとつである耐久高校で学ばれた医学研究者です。

小さい頃から郷土の歴史的偉人、南方熊楠に強く関心を持たれ、学者への道を志されました。医者一家と言われ、厳しい家庭での教育環境の中バイオリンを身につけられながら、自然に医者の道を進んでいくことになります。

弟さんを骨肉腫で亡くされたことにより、将来必ず癌発症のメカニズムを解明してみせるという固い決意による研究生活が、ご自身で名付けた「分子標的癌予防医学」を生み出すことになりました。

癌の原因分子である癌抑制遺伝子RBに関する研究データをもとに食品成分の中から癌予防に有効な成分を必ず見つけ出すことができるという信念を持つようになりました。そして癌予防に繋がる研究により人々の健康維持に貢献したいと一心に願う生活を送ってこられました。

そのような「可能性の極限」に挑戦する研究者としての心構え、人の健康維持のために捧げる日々の生活の意味を、故郷の将来を担う学生に訴えていただけるよう、第二回国際シンポジウム「コメと疾病予防」の組織委員として和歌山入りいただく機会に、先生に御講演いただきます。

## 演奏者のご紹介



山城裕子

山城裕子さんは武藏野音楽大学を卒業後1999年にドイツへ渡り、地元の音楽家や同楽団首席客演指揮者の澤ヶ谷季夫氏らに師事。2002年パリ国際音楽コンクール三位入賞、2003年にはマリー・シェラン国際ピアノコンクールで部門優勝するなど活躍され、帰国後は米子や東京などでソロおよびジョイントリサイタルを開いています。また、ヨーロッパでもフランクフルト国立管弦楽團とピアノコンチェルトを共演する等、国際的にも活動しておられます。また、日本の伝統楽器尺八や華道家の般原崎省吾氏など他分野とのコラボレーションも行うなどの試みも積極的に行っていきます。

### 山城裕子さんからのメッセージ

私は5年間のドイツ留学の中で、ドイツの皆さんから「人としての忘れてはいけない3つの愛情」を学びました。それは、家族への愛情、地域への愛情、自然に対する愛情です。そして日本では、それらの愛情を学ぶものがお米ではないでしょうか。日本人が日本人として國を作り始めた頃から共に歩んできたお米が、日本人の心を形成してきたように思います。

稻作は天候・地形などといった自然環境もしっかり熟知しなければなりません。水の流れ、季節の移り変わりに逆らうことなく、上手に付き合う心が必要だと思います。また、稻作の中で様々な文化・芸能が生まれています。田植え歌に始まり、収穫祭の奉納などまさしく日本の文化の原点があります。

そしてなにより、ご飯のときは家族が食卓を囲みます。一日の出来事などを話す食卓は家族との愛情を育む場所です。また、おにぎりに母親の愛情を思い出す方も多いのではないでしょうか。お米には日本人が人として忘れてはいけない愛情すべてを含んでいると思います。

さらに、日本人の主食が小麦やトウモロコシではなくお米だったことに日本人らしさが大きく関わっているように思います。お米を調理するとき、小麦と違って一粒一粒を壊すこととはしません。またお米は洗うのではなく、研ぐといいます。そして食べるときも、刺すことなくやさしくつまみます。もちろんこぼすこともご飯粒を残すことも嫌います。

おそらく日本人はお米一粒一粒に神が宿っているかのように、自然の恵みを大切にしてきたのだと思います。（ですからお米から作る日本酒はお神酒になるのでしょうか。）

お米に神を感じることが出来る日本人の豊かなやさしい心。これこそが日本人らしさの原点のように思います。

今回、そんなお米の力についての会合が、神話の国和歌山で開催されること、素人ながらも大変すばらしいことだと感じます。日本の歴史はお米の歴史、そして和歌山は古を語る上で重要な場所。まさしく温故知新ではないでしょうか。こういった場所で、多くの皆様に、私の演奏を聞いていただけることを心よりうれしく思います。

### 川瀬麻日香さんからのメッセージ

日本の歴史の中でコメをふんだんに食べる事ができるようになったのは、たったのこの50年。そのことを日本人は忘れてしまっているのではないかといつも恩師から聞かされています。私も毎日食べる事のできる幸せな時代に育っており、日々感謝しています。

母の薦めで音楽を始めましたが、以来、ぐいぐい音楽の魅力に引きつけられ今日に至っています。2004年、癌で亡くなった母がこの私に残してくれた思いをバイオリンという楽器に託し、皆様にお伝えすることができたらこれほど嬉しいことはございません。どうぞよろしくお願ひします。

「チゴイネルワイゼン」（サラサーティ作曲）と母との思い出の曲である歌劇オルフォイスより「メロディ」（グルック作曲 クライスラー編曲）を演奏します。



川瀬麻日香

川瀬麻日香さんは平成3年、御坊市に生まれました。現在和歌山県立日高高校2年生です。ピアノを3才から学び、バイオリンは小学校2年生から始められました。絃楽の里音楽コンクールへの出場は今年で9回目となり、毎年優秀な成績を認められています。

主 催 The Study Group of Rice and Health, Japan 第二回国際シンポジウム「コメと疾病予防」組織委員会

組織委員会（組織委員長）南條輝志郎（和歌山県立医科大学理事長兼学長）

五十嵐脩（栄養改善普及会会長）お茶の水女子大学名誉教授）、伊東正一（九州大学大学院農学研究院）、井上正子（日本医療栄養センター所長）、鶴川孝治（和歌山県工業技術センター所長）、大澤俊彦（名古屋大学大学院生産農芸研究科）、大坪研一（新潟大学農学部応用生物化学科）、小川誠一郎（慶應義塾大学名誉教授）、香川芳子（女子栄養大学学長）、門脇基二（新潟大学農学部応用生物化学科）、酒井敏行（京都府立医科大学大学院医学研究科分子標的の癌予防医学）、菅野道廣（九州大学名誉教授）、熊本県立大学名誉教授）、清野裕（関西電力病院病院長日本糖尿病協会・日本病態栄養学会理事長）、高野克己（東京農業大学応用生物科学部）、谷口久次（文部科学省都市エリア政策官室連絡担当事務所）、大崎民國（事業発展型研究統括）、津志田藤次郎（独）農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所食品機能研究領域長（機能性センター長）、西野輔翼（京都府立医科大学特聘教授）、宮澤陽夫（東北大大学院農学研究科）、渡辺裕（愛媛大学大学院理工学研究科）

後 援 農林水産省、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構、和歌山県、和歌山市、和歌山大学、高野山大学、和歌山信愛女子短期大学、和歌山県立医科大学、近畿大学生物理工学部、和歌山県経営者協会、社団法人和歌山県経済同友会、和歌山アゼリアロータリークラブ、和歌山キワニスクラブ、和歌山東ロータリークラブ、和歌山市民生生活協同組合、高野山真言宗總本山金剛峯寺、丹生都比売神社、財团法人わかやま産業振興財團、和歌山バイオサイエンス連絡協議会、紀州文化の会、米国大使館、イラン・イスラム共和国大使館、インド大使館、インドネシア大使館、ウルグアイ東方共和国大使館、ガーナ共和国大使館、キューバ共和国大使館、ケニア共和国大使館、コートディボアール大使館、在東京ガイアナ共和国名譽領事館、セネガル共和国大使館、タイ王国大使館農務担当官事務所、台北駐日經濟文化代表處、大韓民国大使館、タンザニア連合共和国大使館、ドミニカ共和国大使館、ニカラグア共和国大使館、ハイチ共和国大使館、バナマ共和国大使館、東ティモール民主共和国大使館、フィリピン共和国大使館、ベトナム大使館、ボリビア共和国大使館、マラウイ共和国大使館、マリ共和国大使館、マレーシア大使館、マダガスカル大使館、ミャンマー連邦大使館、モーリタニア・イスラム共和国大使館、モザンビーク共和国大使館、ラオス人民民主共和国大使館、日本医学会、日本うつ病学会、日本環境化学会、日本癌治療学会、日本基礎老化学会、日本健康医学会、日本健康科学学会、日本国際保健医療学会、日本酸化ストレス学会、日本筋質生化学会、日本神経科学学会、日本精神精神薬理学会、日本調理科学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本動脈硬化学会、日本認知症学会、日本ビタミン学会、日本病態生理学会、日本老年精神医学会、財團法人国民精神研究修財團、財團法人バイオインダストリー協会、社団法人葉菜学会、食品新素材技術センター、社団法人日本栄養食糧学会、社団法人日本植物油協会、社団法人日本食品科学工学会、財團法人日本食品油脂検査協会、社団法人日本生化学会、社団法人日本生物工学会、社団法人日本糖尿病学会、社団法人日本糖尿病協会、社団法人日本薬学会、社団法人日本油化学会、全国穀類工業協同組合、全国穀粉工業協同組合联合会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、日本こめ油工業協同組合、有隣販賣中間法人日本病態栄養学会、九州大学大学院農学研究院、女子栄養大学、シーエムビージャパン株式会社、株式会社健康医療ジャーナル、株式会社食品化学新聞社、朝日新聞和歌山総局、株式会社社説伊民報、産経新聞社、株式会社テレビ和歌山、日高新聞社、毎日新聞和歌山支局、わかやま新報、株式会社和歌山放送、株式会社和歌山リビング新聞社、NIKKI和歌山放送局